

力研にたいする駒形氏の案

1月18日、私達京都の研究者が釜研へ集り、湯川先生を交えて主として力研の問題について話合いました。湯川先生は1月15日付で力研所長代理駒形氏あてに下の様な趣意を出しにたり、駒形氏からは1月22日付で湯川先生へ答が返きました。多くの人達の要望がありますので、湯川先生の御了解を得て、ここにお知らせいたします。

問1 現在確定している研究者のスタッフ。

答 じりあす WATER BOILER の購入も済みです。1月末まではその準備のためスタッフを主としていまして、主任研究員としては、杉本、御坂 両氏です。

所内には準備室を設け（出産生等）彼等が計画と進めていすことは、学術会評が許可し上げましたが（1月16日に学術会評の副委員長（長、伏見）が、原子力委員会及び力研関係者を招いて審議された。）室の委員は駒形氏が新しくありまして、更にこの中から今後研究所に入られる方、研究申請をお願いする方があるものと思います。

尚、準備室の仕事を実際にするため——例えば購入機器の保管等——若い人を十人ばかり、取敢て採用しました。

問2 研究部は何と何で、それぞれどの様な人材の採用を暫えておられるか。

答 昭和32年までの予定として大体的なように考えておりますが、手前がどの程度分岐において認められるかにもよるものと思います。

研究室のみとして

理論物理及び数学	10名	実験物理	25名	電気工学	20名
化学	15	化学工学	10	冶金	10
生物医学	5	材料	若干		

で、この他に 実験助手、計測員、電気工などがあります。研究室以外には、建設・企画・調査などがあります。

問3 研究所では当面の目標（実験の建設・建設・材料等）以外の、もつと基礎的な研究をやる余地がどれ位あるか。たとえば、中核子物理の部門とか、原子核理論の部門がもつて、相当自由に研究ができるかどうか。

答 ざし当りの答としては、駒形氏がよく考えてあります。

原子核建設が当面の目標ですが、基礎部門を重視することは当面の方針の一つでもあります。基礎は研究費が豊富にあり、この方面に力を入れるべきものと思います。

す。

問4

今すぐ役に立つ人でなくても、至極素晴らしい役に立つような人も採用されるか。

答

研究所の本質上、今すぐ役に立つ人でなくとも、能力・素地のある人ならば、勿論よいわけでありませう。

問5

生人（生人）が孤立して入るのではなく、何人か一緒に集まって入り、協力して研究していく可能性はあるのか。

答

新しい研究所なので当初から派遣などないようにつとめなく、人質の配置をいかによくしたいと思います。

問6

応募者の経歴はどのようにされるか。（この点について研究者は最も関心をもっている。これについて詳細な話の方から世界の発展をきくようにとの申し入れがあつたが、それを尊重するならば、例えば経歴に関しては、原子力問題委員会にほかつて、専門学術を組むに経歴委員会を作る等の方法も考えられる。）

答

理事・委員等から経歴委員会を作る予定にしています。

問7

研究対象 元素は何か。

答

公衆の友人がいずれにしても、それぞれの研究所の特色と異なつて、多くの研究者を要する方式を考えた方がいいことはありませう。

問8

自分の保障はどうか。

答

服務制度で定められるものでありますが、その制度も一歳と差は格別ないものと思います。